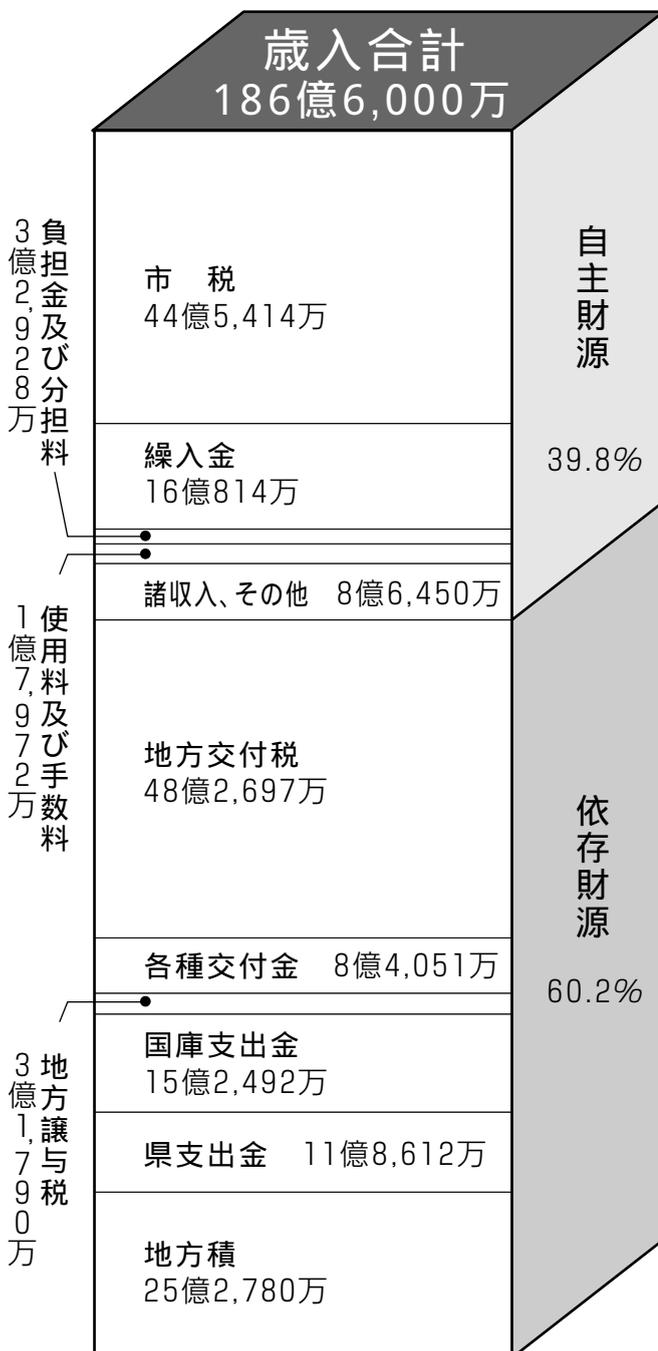


# 平成 16 年度の伊豆市予算

平成16年度伊豆市一般会計予算及び16の特別会計予算がまとまり、6月定例会市議会に提案され議決されました。4月から3ヶ月間は暫定予算でしたが、正式に1年間の予算として成立したものです。その中身は生活基盤の整備を中心に旧4町からの継続事業や、市になったことで県から譲り受けた生活保護扶助事業やそれを行う福祉事務所の設置、3支所の管理運営費など総額は321億円と大型の予算となっています。このうち平成15年度の打ち切り決算に伴う未払い金及び繰越事業分の予算額が23億円ですので平成16年度実質的な伊豆市予算は298億円となります。ここでは皆さんに予算の内容を理解していただくために、予算のあらましと伊豆市建設計画の基本方針に沿ったまちづくりメニューを紹介いたします。



## 一般会計予算 歳入予算の概要

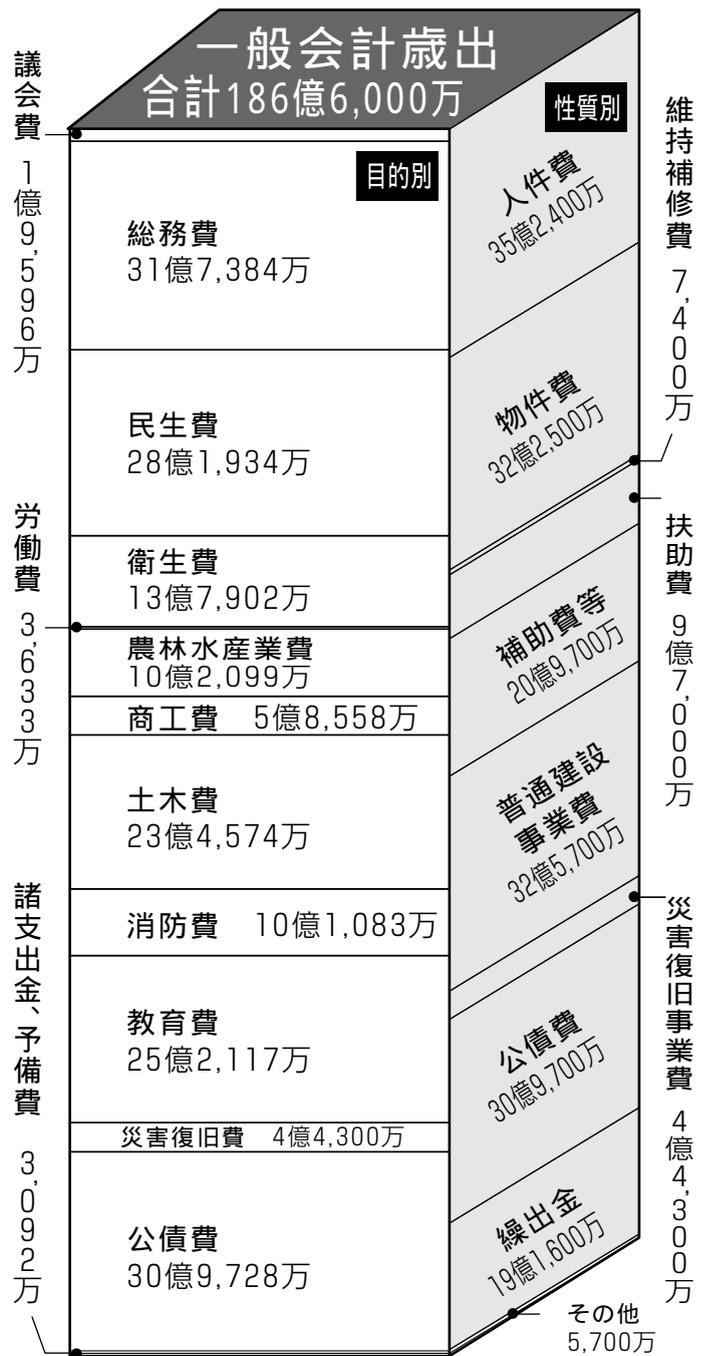
伊豆市としての最初の予算となる平成16年度一般会計当初予算は、総額186億6千万円で15年度未払い及び繰越事業を除くと174億2,700万円となります。これを合併前の15年度当初予算額の合算額と比較すると18億7,500万円の増加となります。この増加は、旧3町の衛生処理施設分4億5百万円、中豆斎場分2,500万円、生活保護費や常備消防統合経費など合併に伴う増額経費6億5,000万円、過年度に借入をした減税補てん債の借り換えに伴う一括償還6億9,400万円等によるものです。これらの要素を除くとほぼ前年並みの予算規模となります。

自主財源は74億3,578万円で収入全体の約40%となります。自主財源の主となる市税は約24%を占め、固定資産税27億704万円、市民税12億7,923万円など44億5,414万円を見込んでいます。

一方の依存財源ですが、国・県からの交付金や譲与税が主となります。地方交付税48億2,697万円、譲与税3億1,790万円、交付金8億4,051万円を見込んでいます。また、特定の事業のための財源として交付される国庫支出金は15億2,492万円、同じく県支出金は11億8,612万円を予定しています。不足する財源を補うための市債は25億2,780万円の借入を予定しており、年度末の償還残高は172億3,252万円になる見込みです。また、基金の繰り入れも16億814万円を予定し、16年度末の基金残高は17億2,566万円となる見込みです。

## 一般会計予算 歳出予算の概要

今年度の主要事業として、今後の伊豆市の方向付けとなる総合計画と国土利用計画の策定経費として2,000万円を計上しました。また、西伊豆消防土肥署の田方地区消防への統合にともなう改築などの経費として2億2,900万円を組みました。高齢者のためのサービス、老人ホーム、デイサービスの運営に2億436万円を組みました。少子化対策や子育て支援として、放課後児童クラブの運営に1,912万円、児童手当、児童扶養手当の給付費1億7,712万9千円を計上しました。市制施行に伴い実施する生活保護扶助費は2億3,351万6千円を予定しています。次に交流と連携の拠点となる交通に関する予算は、天城北道路開通事業として3億1,922万1千円を計上しました。多くの森を有する伊豆市の自然環境の保全を目的とした森林ボランティア事業に226万円。地域の魅力を活かした新たな観光・交流産業の育成を推進するため、ウェルネス産業の調査、事業推進に2,025万円を計上しました。災害に強いまちづくりを目指すため、治山事業に5,685万7千円、河川改修に3,262万2千円、急傾斜地対策に4,984万2千円、海岸保全に2,079万円を計上しました。土肥小学校体育館建替えに3億28万円を見込みました。また教育に関する予算として、中伊豆地区の学校給食センター建替えに3億9,697万6千円。図書館システム統合のための予算として2,600万円を計上しました。



併のため各町予算の持ち寄りという特殊事情はありますが、新市建設計画の基本方針に基づき4町の迅速な一体化を促進し、美しく活力ある伊豆市を実現するため諸施策に取り組みます。

平成16年度は、短期間での合併のため各町予算の持ち寄りという特殊事情はありますが、新市建設計画の基本方針に基づき4町の迅速な一体化を促進し、美しく活力ある伊豆市を実現するため諸施策に取り組みます。



「16年度予算について」  
伊豆市長 大城伸彦